

ならじよ
奈良女子大学通信
today

vol.
36
July
2021

特集

唯一無二の工学部へ
～新時代・デジタル時代に「先駆ける」奈良女に～



奈良女子大学では、2022年4月に日本の女子大学史上初となる工学部（定員45名 第3年次編入学10名）の設置を予定しています。（設置構想中）
初代工学部長に就任予定の藤田盟児教授（現生活環境学部）にお話を伺いました。

情報衣環境学科をはじめとした従来の生活環境学部を再編して、工学部という形にすることにどのようなメリットがあるのでしょうか？

生活環境学部は生活環境科学系とも言われていて、科学と工学が入り混じっています。現代はICT革命が進んでいるので、その現状にうまく対応するためには、「工学部」という形で再編することが必要ではないかと考えました。現代の生活において、今までと変わらないものとして「衣食住」があることはもちろんですが、急激に成長しているエンジニアリングが深く生活の中に関わる時代になりました。だから、そのエンジニアリングに対応するために生活環境学部から切り離して、変化に対応しやすい体制を整えたいというのが目的

です。もう少し深く掘り下げると、奈良女の工学部では「第三の波」に即した工学部を目指したいと思っています。アルビント・フライが説いた学説ですが、第一の波は「農業革命」、第二の波は「工業革命」、そして、第三の波はデジタル技術によって起こる「情報革命」です。今までは大量生産のシステムの中で、多くの人が手に入れ消費する形で工業製品が生産されてきましたが、第三の波の時代においては、自分自身でプログラミングして自分の求める環境を創造するような形の生活になります。そのために、今後の生活には、レベルはさまざまですが、プログラミングが必須になります。つまり、奈良女の工学は工場で大規模に有意義なプログラミングやソフトウェアを創造するというような「第三の波」の工業に即した形を目指しています。抽象的な言葉で言えば、「形のないものを作る」工学部になるのではないのでしょうか。

形のないものとは具体的にどのようなものですか？

様々な判断能力を兼ね備えたソフト

ウェアやシステムなどです。それに人の形を与えるロボットになります。ロボットの肝心な部分は、「何をどう判断するか」「認識したものを判断して、それに対してどう動くか」であり、ロボット工学に取り組むと、視覚など様々な情報を分析するソフトウェアや、その結果からどのように大事な情報を抜き取るかということに焦点が当たっていきます。iPhoneのSiriなどが、その良い例ではないのでしょうか？せっかくなのでApple社の創始者であるジョブズ氏の話をしておくと、彼は新しい技術を作り出したのではなく、それまでにあった技術を組み合わせ商品開発をしています。例えば、「マウス」です。あれはもともと図形情報の研究所で使われていたのですが、ジョブズ氏がコンピュータの操作に使えるのではないかと考え、応用したと言われています。タッチパネルもそうです。こういう形の創造が今の「工業製品」には重要ではないのでしょうか？iPhoneは単に技術開発で生まれたというよりも、今までの技術を「私たちの生活にどのような生かすか」をいう視点から考えたアイデアを製品化して、足りない部分を開発して作り出されたものだと思います。



藤田 盟児（ふじた めいじ）先生

生活環境学部教授（初代工学部長就任予定）

和室が誕生した経緯を明らかにした研究をベースにして、様式や美学を研究。過去から現在までの、世界中の建築デザインの成り立ちを考えて、そこから人間にとって良い環境とは何かを歴史的・美学的な観点から考える。

唯一無二の工学部へ ～新時代・デジタル時代に「先駆ける」奈良女に～

目次

02 特集 唯一無二の工学部へ ～新時代・デジタル時代に「先駆ける」奈良女に～

- 06 Introduction to Master's Studies
- 10 新学生寮の建設について
- 12 Club / Circle # NWU
- 13 佐保会各支部リレー便り・なでしこ基金支出状況のご報告
- 14 学部入試都道府県別入学者数・奈良女子大学の就職支援
- 15 Campus Topics・学生記者の声
- 16 あの頃の奈良女へタイムスリップ!!
= 本学自慢の名物教授 第6回 田村 倣 編 =

確かに、その組み合わせのセンスやそれに気付ける力というようなものが非常に大事なですね。

そのような気が出来るエンジニアを奈良女で育てたいと思っています。

プログラミングの話が多く出てきましたが、工学部は、「人間情報分野」と「環境デザイン分野」の2分野からなるということですが、プログラミングなどは「人間情報分野」に属するのでしょうか？

そうです。人間と情報の「コミュニケーション」、その関係性を扱う分野として、「人間と情報を繋ぐ言語」とも言えるデータ処理法やプログラミングを学ぶことができます。

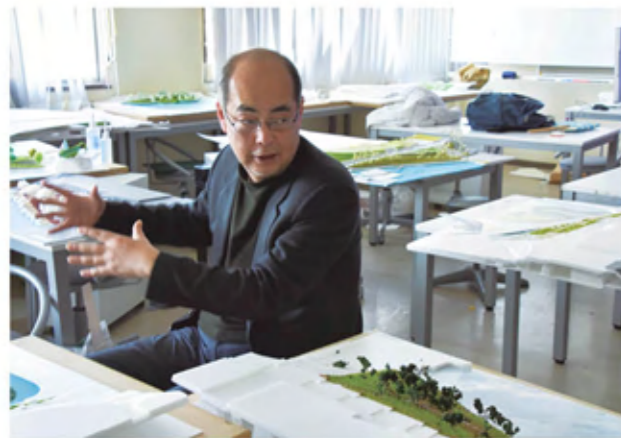
もう一つの分野である「環境デザイン分野」について具体的に教えてください。

人間とプログラミングだけではこの世界は成り立ちません。必ず材料があって、環境があります。今でもその時々に合わせて空調や照明を変えたいと思いますが、生活にプログラミングを取り入れる際には、人と環境の関係を十分に分析しなければいけません。また、人間と情報のより良い関係性を構築するには、その媒介になる材料も理解しなくてはなりません。人間と環境の関係を正しく把握しなければ、人間と情報の関係を正しく活用することはできないと思います。

それでは、「人間」「環境」「プログラム」の三つを繋ぐのが工学部のイメージでしょうか？

そうです。新しい工学部は、「人間」と「環境」と「プログラム」を通じた「機械の世界」の橋渡しをしていきたいという目的があります。
女子大学に工学部ができるという点についてはどうお考えでしょうか？

もともと工学部、ひいてはエンジニアの世界で活躍している女性がとても少ないという問題が世界的にあります。その結果、「女性が必要としている工学」が実現されないことにつながっています。例えば、育児に関連する製品の開発が遅いと言われるのは、これまで育児の中心を担ってきた女性がエンジニアリング



の作りたいものにこだわると、そのような選択肢も避けられないかもしれません。その時のための基礎知識は大切なことですから、アイデアを仕事に仕上げていくプランニングを学ぶ「起業論」を設けています。また「自己プロデュース」も非常に重視しています。というのも、創造するためには、自分自身の考え方や理想、好みをしっかりとさせていることが大切だからです。先ほどから例に出しているジョブズ氏が禅の修行をしていたように、イノベーションを起こす人は自分についてよく考え、吟味し、検討して、自分なりの意見や目標を確立しなければなりません。仕事の上で創造的であるためには「自分」を出していく必要がありますが、そのためには自分自身を理解し、自分なりの信念を確立させて、その信念を実現させることになっていくでしょう。その過程には周囲

にあまり関わっていないからだと思っています。今の工学部の現状は、男性中心の世界いわゆる「片肺飛行」の状態です。より多くの立場の人が参加する方が工学に幅が与えられ、より完全な状態で「工学」という飛行機が飛べるのではないかと思っています。工学に携わる母数の人数が多様であればあるほど、より良い未来が開かれるのではないのでしょうか。現状の工学部は男性の学問というイメージが強くあると思います。そのイメージを打破するために、東大や東工大でも女性の工学部生を増やすプログラムが組まれていますし、海外でもそのような動きが多く見られます。しかしそれでも工学に携わる女性が不足しているのが現状です。

確かに工学部には男性が多いイメージがあります。

様々なプログラムがあるにも関わらずその現状が改善されないのならば、違う角度からの取り組みとして女子大学に工学部を設置し、性別という枠を超えて工学に取り組み場を作ることには意味があると思うのです。

女性の社会参画と題して、ある企業が新卒採用の半数を女性にするという発表をした際、「機会の平等」か「結果の平等」という議論が起こったことを思い出しますが、今まで工学に携わることに抵抗があった人々が、新しい形で参加できる場ができることは、工学の発展の可能性を大きく広げることにもなるのではないかと思います。

副学長の小路田先生もおっしゃっている

ですが、「奈良女は「先駆ける」なんです。性別に関わらず、女性と工学の新たな関係をつくる先駆けにならないといけないと思っています。その中で発見された「私たちにもこういうことができる」という発見が、後々に会社や地域に伝播していく、ひいては社会における工学のあり方も変わっていく。そうすれば他大学の工学部でも男女の比率に変化が起こっていくかもしれません。ある意味、社会的実験であるとも言えます。女性の活躍できる場を広げていくという点は奈良女子大学が設立された時から使命ですから、その点でも工学部設立は奈良女にとって重要な取り組みであると思います。

その工学部では、MOOC(※)等のメディアを用いた新しい学習システムが用いられるとのことですが、これらにはどのような効果を望みますか？

MOOC等の活用は、多様な人材を受け入れた際に必要な手法であるとして、用いる方針ではあるのですが、その前提として「STEAM教育」を行うという目標があります。以前は「STEM教育」(Aが抜けた形)が提唱されてきました。Sはサイエンス、Tはテクノロジー、Eはエンジニアリング、Mはマスマティクスですが、そこにAであるアートが加わって、「STEAM教育」になります。これらはハーバード大やマサチューセッツ工科大でも行われていることです。

なぜ「アート」が取り入れられたのでしょうか？

その戸惑いは、先ほど説明した「第三の波」に関係しているといえます。今まで求められてきたのは、足並みを揃えることや普通であることでした。すなわち「第二の波」(↓工業化)に則った教育でした。大量生産を目的とした工場労働や大量消費社会の一員に適する資質を育てるときに、自分らしさは必須事項ではありません。しかし企業側はすでに「第三の波」の時代であると知っています。故に、それに適した人材、つまり発想力やプレゼン能力を備えた独自性に富んだ人材を探すのです。今は、「第二の波」的な時代から、「第三の波」的な時代へと転換している、まさに過渡期の時代です。だから次の時代に対応できる人材を輩出できるように工学部でありたいと思います。

大学生の多くは、企業や社会が、高校までの学生生活にあまり求められなかった「自分らしさ」や「個性」をいきなり求めてくるように感じていると思います。その点で、「自己プロデュース」や「起業論」はその「戸惑い」を解消する一助になるような気がします。

この戸惑いは、先ほど説明した「第三の波」に関係しているといえます。今まで求められてきたのは、足並みを揃えることや普通であることでした。すなわち「第二の波」(↓工業化)に則った教育でした。大量生産を目的とした工場労働や大量消費社会の一員に適する資質を育てるときに、自分らしさは必須事項ではありません。しかし企業側はすでに「第三の波」の時代であると知っています。故に、それに適した人材、つまり発想力やプレゼン能力を備えた独自性に富んだ人材を探すのです。今は、「第二の波」的な時代から、「第三の波」的な時代へと転換している、まさに過渡期の時代です。だから次の時代に対応できる人材を輩出できるように工学部でありたいと思います。

これからの奈良女の工学にどのようなことを期待しますか？

目指しているのは「コンピュータで情報交換ができる時代の中で、人間にとって良い工学を実現すること」です。それは性別

サイエンス、テクノロジー、エンジニアリングはそれぞれ「知識や技術を学ぶ」という形式をとります。しかしこれまでにないものをつくるといった創造という観点に注目すると、自分なりの気づきや感性からものをつくる「アート」が必要になるのです。従来のSTEMに加えて「創り出す科目」であるアートを学ばなければ、自ら何かを生み出すことのできるエンジニアは生まれません。その点でSTEAM教育が現代の工学に求められているのです。イノベーションを起こせる人間を育てるには、イノベーションそのものを教える必要があります。もちろんジョブズ氏のように教えられずとも会得する人は存在しますが、大学教育の中で、ある程度集团的に効果を出さなければいけないことを鑑みると、今までにないものを創造する「アート教育」が必要であると思います。もちろん、アート教育だけでは不十分です。奈良女の工学部でも重視する予定ですが、「リベラルアーツ」というものもあります。世の中や人間のことをより深く知る授業群です。これらの授業から、「人類にとって理想の工学とは何か」を多角的に考えるきっかけを得て、工学へのアイデアにつなげてほしいと思っています。「批判的思考」という科目は、そのために用意しました。また、「Project based learning」、通称をPBL教育と名付けていますが、その教育では「新しい見たこともないものをつくり出す」ことに焦点を当てています。例えば、貧しい国や被災地などで困っている人たちが必要とするものを考えて創り出す、社会改善に関

に関係なく携わることのできる工学のこともあります。また、繰り返しになりますが、「第三の波」(情報革命)に適した工学であることが目標です。これまでの革命(農業や工業)に共通していることは、関係するもの全てを便利にしているわけではないということ。農作物や動力機械など「人間に必要なものを選択して便利にすること」が人類の発展の根底にあります。私たちが便利になるような工学を、「性別に関わらず」そして「ICTを通じて」、奈良女で生み出すことを目指していきたいと思っています。

最後に奈良女の工学部に興味を持っている学生に一言お願いします。

奈良女の工学部では年次にかかわらず科目選択が可能です。学生自身が自身の価値観に基づいて履修する科目を選択することができます。古い時代の工学を学んだ私たちが教員には、新しい工学について分からないことがたくさん出てくると思います。教員も学生と一緒に新しい工学の形を探っていく中で、学生に望むことは、自分に適した工学を見つけて、考え出してほしいと言うことです。それが奈良女らしい工学部をつくるだけでなく、世界を変える工学のスタートになるのではないかと思います。教員もそのために勉強努力していきます。だから教員の後をついていくのではなく、自分自身で開拓しようという心意気でほしいのです。自分の世界を持ち、その世界を工学を通じて社会で実現しようとする人が、奈良女の工学部で学んでほしいと思います。



する演習なども予定しています。それらの授業で、「問題に対してどのような態度で、どのように立ち向かうのか」ということを学生の間に学んでほしいのです。そのためには、自発的な学習が必要です。MOOC等も、そのために必要だと考えています。教員が与えるのではなく、自分たちで考えて準備する姿勢を求めています。一人一人が異なる考えを持ち寄ることによって、より新たな発想が生まれるはず。

また工学部では、「自己プロデュース」や「起業論」といった科目が開設されるとのことですが、この授業は工学部生にとってどのようなメリットがあるのでしょうか？

新しいものをつくるにはプランニングも重要です。例えば、新しいものを開発して上司に提案するためにもプランニングは重要ですし、それが不可能な場合は自分で起業するという選択肢も出てくるわけです。自分

お話をお聞きしているだけでワクワクしてきます。

私は建築の歴史を研究していますが、その中で気づいたことは、新しい世界を築く人々やスタイルはその時代の政治経済の中心地からは出てこないということです。中心地にはその時代の価値観を持つ人が集まっているので、異なる価値観は歓迎されません。だから中心地から離れた場所で、新しい価値観が生まれやすいのです。奈良の位置に注目しても、奈良女から新しい価値を発信できる可能性は大いにあると思います。その起爆剤として工学部が活躍できるのではないかと期待しています。

※MOOC(Massive Open Online Courses) インターネットを利用して遠方からでもオンラインで講義を受けられるプラットフォームのこと。

学生記者の声



初めて長い記事を書かせて頂きました。藤田先生とお話していた時間は、自分の考えが深まる感覚を強く感じた、とても印象的な時間でした。奈良女の工学部に多くの学生が興味を持ってくださることを強く願っています。

末吉 美帆(すえよし みほ)
文学部言語文化学科3年生
出身校:鹿児島県立鶴丸高等学校

大学院へ
ようこそ!

Introduction to Master's Studies

心身健康学専攻 スポーツ科学コース



生活環境学部
心身健康学科
スポーツ健康科学コース
准教授
石坂 友司
いしざか ゆうじ

野球の正しい実像を伝えているのか、メディアが作った物語をただ受け入れているだけではないのか。我々が感動的だと思っている甲子園野球を斜めから見るわけです。そういう観点からスポーツを見ていくのが、スポーツ社会学という学問です。

中でも、現在最も関心を持って研究しているのがオリンピックです。オリンピックには良い面と悪い面の両方がありますが、それを開催することで私たちは何を達成することが出来るのかに関心があります。最近では「レガシー」という言葉が使われますが、オリンピックの遺産ですね。それは開催準備で全てが決まるわけではなく、例えば競技場が造られれば、オリンピックが終わっ

た後も何十年も使われていきます。その際の維持費はどうするのか。オリンピックのよくなメカイベントだと、開催が終わると何もかも忘れ去られがちですが、それを反省的に見て、10年後、20年後の社会でオリンピックの遺産がどう変化していくのかといった観点で研究しています。

Q そのテーマに関心を持たれたきっかけは何だったのでしょうか

もともとはオリンピックを中心に研究していたわけではなく、明治期以降に日本のスポーツ界が形成されていくとき、それを支えたエリートがどのように組織やネットワークを作り出していたのかということに大学院では研究していました。それがオリンピックのような国家的なイベントと出会うことにより、国からお金を出してもらおうようになり、スポーツ界の自立性が弱まっています。そして招致されたのが1940年のいわゆる「幻の東京オリンピック」で、開催はされませんでした。オリンピックが日本のスポーツ界を劇的に変えていくことに興味を持ちました。

その頃、私の指導教員が「オリンピック・スタディーズ」という本を出したのですが、当時はまだオリンピックが研究領域として未成熟で、日本のオリンピックについて研究している人はほぼいませんでした。そこで、戦前の1940年大会と、実際に開催された1964年大会が連続性をもっていられるのではないかと仮説で論文を書いたのが出発点です。

そこに現在の東京オリンピック招致の動きが重なりました。オリンピックがどのような影響を生み出すのかを事前に調べておけば、

Q スポーツ科学コースではどのようなことが学べますか

「スポーツ科学」は幅広い学問です。私が専門としている社会学や、歴史学、法学といった、スポーツという社会現象を研究する人文社会科学系の学問分野の他に、バイオメカニクスや生理学といった、身体の動きを解析したり、心身機能の変化について研究したりする自然科学系の学問分野があります。また奈良女子大学には無いのですが、指導方法を研究するコーチングや、競技の方法論を研究する領域などもあります。

本コースでは文理融合という形で、スポーツや体育、健康、身体にまつわることに興味を持って考えていきます。「スポーツ」と一口に言っても、政治、経済の問題、環境や教育の問題などが含まれており、様々な領域と関係をもっています。スポーツや身体をきっかけに、他の学問のように二つにターゲットを絞らず、様々な分野を広く扱うのが本コースの特徴と言えるかもしれません。

Q スポーツ科学コースの魅力は何だとおもわれますか

スポーツや身体を動かすことが得意でなくても学べるのが魅力だと思います。一般的にスポーツ科学という領域は体育学部やスポーツマネジメントコースなどで研究されることが多いので、多くの大学ではアスリートとして活躍したい人たちがそこを選んで来る場合が多いです。そうするとスポーツが出来ることが前提になってしまいますが、本コースではプロになることや、技術を高めることを目指していないので、スポーツの得意、不得意

東京で開催された場合に何か提言できるのではと考え、社会学の研究チームを組みました。1964年大会との比較では年数が経ち過ぎていたので、1998年の長野オリンピックとの比較を行うことにし、開催10年後の2008年から長野に行き、開催前の期待がどう変化していったのかを街の人に聞き取りました。大会後にどのような遺産が生み出されたのかという視点も、このように変化するのがこの視点は、こうして獲得されました。その中で資金の無駄が多いことなどを提言し、今回の東京大会の競技場の建設費を抑えることができました。

Q 研究を通してのやりがいや苦労を教えてください

違う視点から見えていったときに社会の違った像が見えてくるのが研究として面白いです。定説を翻し、今までされていなかった見方を提供できるのが面白いです。例えば1964年の東京大会は高度成長の時代で、交通網が整備されたこともあり、盛り上がりつつあったイメージがありますが、調べてみるとそうでもなかったんです。国民に興味を持たれていないという、直前まで中止した方が良かったという大変だったということが分かりました。

苦労というと、メディアなどで意見を言うとき、開催賛成か反対かの2択で答えることが求められるのですが、その際は開催についての良い面も悪い面も言います。そうすると賛成派・反対派の両陣営から叩かれてしまうので、その困難性はあります。もともと社会学は政治的主張を述べる学問ではなく、社会が今どう見えているのか、その構造を分かっ

には全く関係なく、関心のある人なら誰でも学ぶことができます。また色々な領域の先生方がいるので、スポーツや身体にまつわることに興味を持って多角的に学べるのも魅力だと思います。

Q 先生が現在最も関心をもって研究されているテーマについて教えてください

私の研究分野はスポーツ社会学です。私たちは社会という人との関係性や慣習などに縛られており、そのあり方を分析するのが社会学です。簡単に言うと、社会学は私たちが当たり前に感じている物事をそのまま真つすく見ずに、斜めから見ようとしています。本当に正しい理解のもとに見えているのかを調べるために、見る角度や距離を変えると、四角く見えていたモノが三角や丸く見えたりしますよね。

スポーツ社会学は、スポーツの世界を見ることを通じて、社会を見ようとする学問です。例えば、高校野球を思い浮かべてください。坊主頭の高校生が暑いなか白球を懸命に追いかけている姿を見て高校生らしいと感じ、感動しますよね。しかし、その姿は高校生一般に見られるものではありません。つまり、高校野球はそれを高校生らしいと感じさせる仕組み・装置になっているんです。高校野球球つて良いな、若者らしさって良いなと感じられるように、メディアも色々な物語を作り出します。私たちはメディアを通して高校野球を見るわけですが、それは本当に高校

弱いと思われる批判されてしまっていますね。

Q スポーツ科学コースを目指す学生にメッセージをお願いします

好き嫌いや、得意不得意に関係なく、スポーツや身体のことについて真剣に考えられる学生に来て欲しいですね。スポーツ科学コースを学べる大学は他にもたくさんありますが、本コースでしか学べないものがあると自負しています。また、毎年シンポジウムが開かれています。オリンピックの研究に力を入れて取り組んでいるので、オリンピックに関心がある人にもおススメのコースです。一緒にスポーツを通して社会について考えてみましょう。

学生記者の声



私自身は運動音痴でスポーツが苦手なので、「スポーツ科学」という学問とは縁がないだろうと勝手に思っていたのですが、今回色々なお話を伺ってとても興味が湧きました。この記事を読んで、皆さんにもそう感じていただけたら幸いです。

高木 美沙(たかぎ みさ)
文学部人文社会学科3年生
出身校:金沢泉丘高等学校(石川県)

数物科学専攻 物理学コース

大学院へ
ようこそ!



理学部
数物科学科
物理学コース
教授
高橋 智彦
たかはし ともひこ

理学部
数物科学科
物理学コース
助教
大木 洋
おおき ひろし

読んでいくうちに、素粒子論という分野があることを知りました。面白かったのは、湯川秀樹、朝永振一郎等、素粒子論の黎明期に日本人が活躍していたことですかね。自分もやってみたくて漠然と思いましたが、ちなみに、先に話した統一理論の基礎や弦理論については、南部陽一郎先生が提唱されたもので、素粒子の種類については益川さん、小林さんが予言をされました。ここで述べた方は全員ノーベル賞受賞者ですから、やっぱりすごいですよね。

大木先生 私は、なぜこの世界があるのか?世の中どうなっているのか?というのを突き詰めて迫ってみると究極的にはどうなるのか?ということを知りたかったからですね。頭の中で考えて、理論を組み立てて自然界などの世界に迫れるということに魅力を感じました。自分の頭の中だけでそれらわかるのが面白いですよ。そういうことを追究したくて。

Q 素粒子物理学の魅力は何だとお考えですか?

高橋先生 それはやはり、この世界を理解できることが魅力ですね。理解できるとは何かというと、この世界を美しいと感じることができるといことです。生まれてきてよかったと思えます。生きることが本当に楽しいです。世界の美しさを感じられるということ。本当に素晴らしいことです。

大木先生 数学的な美しさというものもありますね。それらは芸術に近いと

ころもあつたりします。

高橋先生 そういうこともあつて、やはり研究が面白いんですよ。僕らで研究の話を出すと止まらないです。お昼ご飯を食べながらずっと研究の話をしています。

Q 素粒子論研究室が求める学生像はどのようなものですか?

高橋先生 自分自身で様々なことについて考えることができる学生さんたちですね。あらゆるものに対して、なぜ?と問い続けてほしいです。本に書かれていることすらも疑ってほしいと思います。本当にそれは正しいのですか?と。物理現象に限らず、例えば社会だとか、様々なことについて問い続けてほしい。この世界はあらゆるものがそれぞれに関係しています。無関係なものはありませんからね。

Q どうしたら先生方のような研究者になれますか?

大木先生 楽しく長く研究を行えることが大事ですね。研究が楽しいなって思うことができる、そういう意味で研究が好きで行うことができる。好きじゃないと研究を続けることはできない。そこが一番大事ですね。

高橋先生 良い研究というのは、楽しんでいられることだと思えますね。楽しんでいられることが一番大事です。なかなか安定したポストが見つからなくて、はたから見ると苦しそうな状態に見えるような方でも、長く良い研究をしている方もいます。そういう方たちは研究を楽しんでいるのだと思えます。どんな状況でも研究を楽しむことができます。

Q 物理学コースではどのような教育・研究が行われていますか?

高橋先生 素粒子のような小さなものから宇宙という大きなものまで、さらに宇宙の始まりから未来まで、ありとあらゆるものが物理学の対象となります。物理学コースにいるスタッフの研究分野は、この広範な物理学を比較的一様に覆っていると思います。物理学の基礎を身につけたあと、究めたい分野を研究できる教育が行われています。

Q 「素粒子」って何ですか?

高橋先生 物質を構成する最も基本的な粒子、電子やニュートリノ等が素粒子とよばれています。光も光子とよばれる素粒子の集まりです。この世のあらゆるものが素粒子からできていると言っても過言ではありません。ただ、素粒子は粒子なのですが、それは素粒子の側面を見ているに過ぎなくて、本質的には粒子と波という二つの性質を備えたものです。波のように広がって行き、捕まえるのが粒のように見える。それが素粒子で、素粒子が何かということの本当に理解するためには、量子力学の先にある場の量子論を理解する必要があります。

大木先生 場の量子論では、粒子を宇宙や空間全体に広がる「場」だとして、そこから波のように形成されていく二つの単位が素粒子であるといえます。

Q 素粒子を研究する(＝職)ことで、何を職ることができますか?

高橋先生 大げさかもしれませんが、私たちはどこから来たのか、何者か、どこへ行くのか、について職ることができます。素粒子を研究する(＝職)ことで、何を職することができますか?

大木先生 自分は研究をしているのだと言えはその瞬間から研究者です。例えば素粒子論では、頭の中で行うことができる研究なので高価な設備などを使わなくても最先端の研究が行えます。

また、研究者になった時に自分はどういう風になりたいかというイメージを明確にしておくことが大切になってくるのではないかと思います。自分の目標に向かって突き進むということがとても大切です。研究テーマは誰かに与えられるものではないので、自分でテーマを見つけて研究していかないとけないです。

高橋先生 面白いと思うことを考え続けていく人が研究者だとすれば、いろんな形で研究している様々な研究者がいますね。研究者になる明確な方法や決め手はないですが、考え続けることが好きでしたら研究者になれる、もうそれは研究者です、と言うこともできると思います。僕らも素粒子論についてずっと考えながら過ごしていましたね。

Q 物理学コースを目指す学生にメッセージをお願いします

高橋先生 物理学というのは宇宙のあらゆる現象を対象とする魅力的な学問です。更に、物理学コースで身につける数学物理学や実験の方法は、非常に普遍的な方法、ユニバーサルな方法になってい

を研究していると、あらゆる現象は素粒子がつくりだしていることがわかります。さらには、宇宙にはなぜこのような物質が存在するのか、なぜ宇宙は4次元なのか、そもそも物理法則が成り立っているのはなぜか、宇宙に終わりはあるのか等、私たちの存在について問い直すような問題が素粒子論では研究されています。

素粒子は何種類もあつて、それらに働く力は4種類あります。ところが、素粒子と力の違いは見かけ上のものであつて、それらを区別しない法則、統一理論が背後にあることが50年ほど前にわかってきました。この考え方を突き詰める、素粒子と力に種類があるのは二次元的な広がりをもった弦の振動の違いのため、究極的には一本の弦だけが存在するという理論に辿り着きます。なぜ今あるような物理法則が成り立つのか、この理論はそれを説明する可能性を秘めており、世界中で研究されています。将来、素粒子がこの世のすべてがわかった、ということが起こるかもしれません。

Q 先生方は何をきっかけに素粒子論に興味を持ちましたか?

高橋先生 小さなころから理科や図工が好きで、工作をしたり、電気分解の泡を見つめていたり、永久機関について考えたりのことが好きでした。そのような中で、中学のときに相対性理論について知り、物理への指向性が強くなっていたように思います。いろいろ本を

るんです。そういう知識や技術を身につけて卒業した先輩には、自動車や鉄鋼、電気、コンピュータ、金融など、そういったところで研究者、開発者として活躍する方たちが沢山います。そういう意味で、宇宙の全てを理解した上で社会に出て活躍したいという人は、是非、物理学コースを目指して欲しい。そういう風に思っています。

学生記者の声

「研究者」は、大学で学問に勤しむ学生のほとんどが憧れる職業だと思います。研究者達が実際に研究者になるまでの道のりや、研究分野に対する想いなど、普段聞くことのできない研究者の「声」が聞けて新鮮でした。我々学生からすると、実際に研究室に配属されて研究をしていくということは、先生方の元に弟子入りしているようなもので、これから師匠の元で修行(研究)を頑張りたいという気持ちがより一層強くなりました。学生記者をさせていただきありがとうございました。

簡泉 佳子(つつみ かの)
奈良女子大学 理学部 数物科学科 物理学コース 4回生
出身校:同志社高等学校(京都府)

この世を理解し、美しさを噛みしめて生きていくことに強い憧れを抱きました。まだ世界を視覚情報としてしか観測できていない私でも、素粒子物理学を学んでいくことで、世界の姿や仕組みを深い知識として得ることができるのだと思うと胸が躍ります。世界の真理に迫る興味深い分野だと改めて思いました。

山本 蘭菜(やまもと らな)
奈良女子大学 理学部 数物科学科 物理学コース 4回生
出身校:奈良県立平城高等学校





新学生寮の建設について

学生による、学生のための寮

新学生寮の概要

なでしこ基金へのご寄附と目的積立金を原資に、令和3年8月に竣工予定。令和4年4月から、新入生が入居予定です。

プロジェクトの要約

2021年、奈良女子大学創立110周年を迎えるにあたり、奈良女子大学学生寮の一部を建て替えるプロジェクトが2018年4月からスタートしました。この新学生寮建設にあたり、「学生寮をつくることはプロセスである」という今岡学長の

言葉のもと、新学生寮建設を学生の教育研究の「場」として活用するため発足したプロジェクトです。

奈良女子大学110周年記念のプロジェクトの一つであるこの新寮計画は、奈良女子大学で住環境を学ぶ学生が、教職員、地方公共団体、建材メーカーの協力を得ながら基本計画書から工事現場監理に参加しています。また、本学園祭などの行事に合わせて展示会を行い、その際に行ったアンケート調査から、広く学生の意見も取り入れた寮の計画をしてきました。

新学生寮建設後も、住環境についての検証を行う予定です。

本記事では、実際にプロジェクトに携わった2名の学生、博士前期課程住環境学専攻2回生の佐藤菜央さん・中島萌音さんにお話を伺いました。

新学生寮建設プロジェクトについて

1 学生寮建設プロジェクトは具体的にどのような進んでいったのでしょうか？

学生を中心とする学生寮の調査から始まり、どのような学生寮にしたいのかみんなで話し合い、そこから配置計画や平面計画、断面計画を行いました。もともと長屋形式の個室タイプを計画していたのですが、予算面、教育面、法規的な面から最終的にキッチンで3人で共有するプランに変わっていきまし

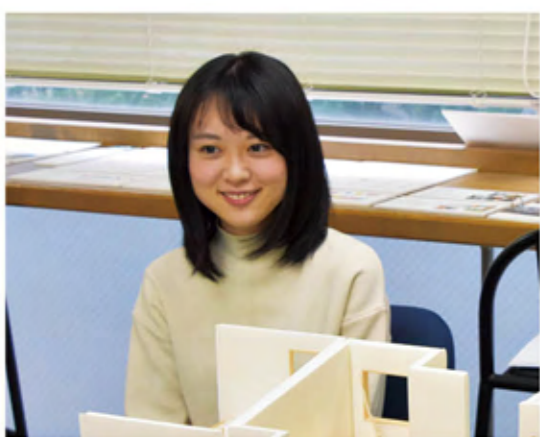


当に自分たちが考えたものが建つんだと思うと感慨深く、参加して良かったなと思います。

中島 やっぱり作業は簡単ではなくて人が住む場所を作るといいうのは大変だなと思いました。その大変さを知れたことも良かったです。完成してそれが実際に使われる日が見られるのは楽しみです。また、工程を知れたのも良かったなと思います。

新学生寮について

6 設計コンセプトの「奈良らしさ」「豊かな外部空間」「メゾネット住戸」「快適な居住空間」「大学を超えたプロジェクト」についてとずつ具体的にお伺いしていきたいです。奈良らしさ…多くの寮は鉄筋コンクリート造だと思えますが、今回は木造でつくるところです。予算の問題で奈良の木材の使用は難しいですが、私たちの先輩方が木材利用できないか吉野郡下市町でプレゼンを行う機会がありました。



中島萌音さん

豊かな外部空間…人が集まれる場所をつくることに気を付けました。学生寮に入る際は、中庭から入っていくので中庭がたくさんの方が集まるコミュニケーションの場になるように設計しています。

メゾネット住戸…今回、部屋数を72室から90室を増やすので、限られた面積を活かすために、土木建築を専門とする長田直之准教授設計の「メゾトール」という建物を元に、メゾネット（※1）で住空間を垂直方向に使うて出来るだけ広く開放的な空間になるようにしています。

快適な居住空間…窓を多く取り付けることを重視して、一つの部屋に3つから4つくらい窓を付けるようにしているので、換気や採光により、かなりいい環境になっていると思います。

大学を超えたプロジェクト…展示会や学園祭で模型を展示して、アンケートをとったり、自由にコメントを書けるボードを置いて、学生や地域の方々に意見を聞いたりしました。また、奈良市役所での打ち合わせに学生も参加させてもらったり、消防署でも避難のことかを聞いたりとか、そういうことを含めて大学を超えた活動をしていました。

コロナウイルスが無ければいろんな学部の方に工事過程を見てもらおうということも計画していました。

7 新学生寮のアピールポイントはありますか？

佐藤 中庭空間を活用したシアタールームなども計画していて、学生間でコミュニ

た。学生が中心となって意見をまとめ、先生と何度もミーティングをし、施設企画課の方に法規を教わりながら話し合って進めていきました。

2 このプロジェクトに参加した理由は？

中島 関わった作品が実際に建つという経験はなかなかできないということと、実際の計画から一つの建築をつくる過程が就職する前に学べるというのは大きな機会だと思いが加えました。

佐藤 中島さんと重複しますが、基本設計から実際に建つところまで体験できるのは本当にいいことですし、いいチャンスだと思つたのと、所属する住環境学科は建築学科と違い見た目やデザインよりも、住んでいる人の使いやすさを重視したことを学べる学科なので、実際に奈良女の学生が住む場所を作るということに魅力を感じました。

3 このプロジェクトに参加して苦労した点を教えてください。

中島 授業の課題ではデザインを追求するだけですが、今回の新学生寮は実際に建つものなので、法律や予算など学生が普段は見えない部分に苦労しました。また、たくさんの方が関わっているプロジェクトですし私たちが最初から関わっていたわけではないので引き続きが大変でした。

ティーが生まれやすいところがアピールポイントです。

中島 デザインの基本が3室集まって一つのユニットになっていて、そういう小さな単位がぎゅつと集まって中庭で大きなコミュニケーションが出来る場所です。また、色彩にも配慮して大学の記念館で使用している緑もアクセントとして一部に使うと考えるとそれが見た目のアピールポイントです。計画段階なので変わるかもしれませんが。

8 新学生寮についての概要を教えてください。

3 部屋1ユニット、1住戸2階建てのメゾネットを3人でシェアしそれぞれに個室があります。1階は3人共有のキッチンと洗濯機が1台あり、2階はリビング空間で各個室にシャワールーム（湯舟なし）、トイレ、備え付けのロフトベッドがあります。コンセントが1階は室内に1ヶ所、洗面所に1ヶ所、2階は室内に3ヶ所つく予定で困ることはないと思います。学生の意見を取り入れてロフトベッドにもコンセントが付く予定です。インターネット環境については、居室内にLANコンセントはなく、無線LAN等の整備についてこれから検討していきます。また、フラットタイプというワンフロアで生活できる部屋も用意しているので、車いすの方も段差なく生活できます。（※2）

9 最後に読者の皆さんにメッセージをお願いします！

佐藤 数年かけて、プロジェクトも進んでいきますし、学生間でイベントが出来るとスペースもいろいろ計画しているので様々な使い方ができたらいいのかなと思っています。また、実際に学生寮ができるのがすごく楽し



佐藤菜央さん

佐藤 課題や授業でやっていることと全く違いますし、授業では教わらないこともかなり多く理解するのが大変でした。特に、法律系が難しかったです。

4 このプロジェクトに参加して良かった点を教えてください。

中島 実際にどういう順序で建つのか、工事になるとどういう工程が必要なのかといった、考える手順みたいなものを就職の前に実際の現場で知れたのが良かったなと思います。

佐藤 研究室のみんなで学年の壁を越えて一つのプロジェクトに打ち込めたのがいい経験になったし、仲良くなるきっかけになったのが良かったなと思います。

5 プロジェクトを通しての感想をお願いします。

佐藤 大変なことたくさんありましたが、実際に今、工事が行われている現場に行つて本

みです。

今回改修する学生寮の他にも学生寮があり、そこを改修するプロジェクトも想定されているので、興味のある方はぜひ、生活環境学部住環境学科の加藤研究室に来てください。

中島 私も、実際に完成する日を楽しみ学生同士がコミュニケーションを豊かにとれる環境になればいいなと思います。このプロジェクトは学科とか大学を超えて過程を大事にするというところから始まっていて、工事の過程がわかる見学会もあるので興味のある方は見ていただければいいなと思います。

※1 メゾネット

集合住宅だが、一つの住宅の中に階段があり、二戸建のように利用することができる住宅。

※2 計画段階の概要であり、多少の変更がある場合があります。

学生記者の声



さまざまところに学生のアイデアが反映されていて、住みやすそうだと感じました。メゾネットタイプの寮はなかなかないので、完成が楽しみです。

那須 博美(なす ひろみ)

理学部化学生物環境学科
環境科学コース4回生
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)

佐保会 各支部リレー便り 全国47都道府県で活動



大阪支部 加地 芳子

(1965年 家政学部被服学科卒業、1967年 家政学研究科被服学専攻修了)

大阪支部は、会員数約2800名を擁する全国最大の支部です。平成26年には『佐保会大阪支部のあゆみ』を上梓し、100年を超える同窓会活動の歴史をまとめました。その中で、女子の高等教育進学者が少なかった草創期から現在に至るまで、大阪における教育界をはじめ公的機関・民間企業などの各界各分野で活躍し、まさに男女共同参画社会の創造に参画・リードしてきた女性人材の集団であり続けていることを再確認しました。

現在は、コロナ下で変則的ですが、例年は、年1回の支部総会、月例会(5つのテーマ毎に、月1~2回開催)、その他講演会・見学会・親睦バス旅行などを毎月計数回実施し、世代を超えた会員の交流の場となっています。これらの催しは、親睦の場だけでなく、教養を深めたり、これからのあり方を考えたりしながら、社会との接点を持つ場になっています。例えば、月例会「グループ夕」は朗読を楽しむ会ですが、そのメンバーは、音訳・対面朗読やお話の会などを通して朗読ボランティアとして約40年社会貢献しています。また、近畿という好条件を活かした歴史探訪、動植物や宇宙の世界、文学作品の解釈など新しい学問的成果に基づいた見学会や講演会などにより教養を深めています。その他、個人では行きにくい「Spring-8とSAKURA」(世界最高性能の反射光を利用する大型実験施設)の見学や、女性が働いて生きることについて考えたり、脱炭素社会に向けた暮らしのあり方をSDGsと絡めて見直すなど、現代社会の課題について学び合っています。

大阪支部会員は多様な場で活躍していますが、その一例を紹介しますと、大阪町人の暮らしを研究し語り継ぐ活動に取り組んでいる船場育ちの生活文化史研究家で大阪天満宮文化研究所研究員の近江晴子氏(S38年文学部史学科卒)、ボタニカルアートの尾形幸子氏(S47年理学部生物学科卒)、奈良女子大学構内にある同窓会会館で登録有形文化財「佐保会館」の改修を担当した石井智子氏(S51年家政学部住居学科卒、S53年家政学研究科住居学専攻修了。美建設事務所代表)、50歳を過ぎて講師の道に進まれ精力的に活動中の旭堂南照(垣内富貴子)氏(S58年文学部教育学科卒)などです。



長山耕三師をはじめ関西でご活躍の能楽師による舞囃子「船弁慶」を総会で鑑賞



備前松山城へのハイキングで

なでしこ基金支出状況のご報告

皆様方からのなでしこ基金へのご理解のもと、令和2年4月1日より令和3年3月31日までの1年間に、29,681千円(古本募金782千円を含む)のご寄附をいただきました。心から、温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄附金は、次のとおり、なでしこ基金による様々な事業の貴重な資金として、有効活用させていただきました。

【令和2年度支出状況】

	金額(千円)	実施内容
学生育英事業	2,212	学長賞20名 稲葉カヨ記念教育研究奨励賞2名 修学支援特定事業
国際交流事業	5,521	留学生奨学金 等
緊急学生生活支援事業	10,321	食の支援、困窮学生への生活支援 等
その他	1,223	女性史学賞 AED更新 等
合計	19,277	

Club/Circle # NWU



#ピアノ #学部学年不問

♡お気に入り

piano-forte メンバー数:28人

活動内容:定期演奏会や100年ピアノコンサート、四大学合同演奏会などに4回ある公演に向けての個人練習が中心。

◎推しイベントを1つ挙げるなら? 毎年6月に行われる100年ピアノコンサートです。国の重要文化財である記念館で100年もの間大切に保管されてきた100年ピアノでコンサートができるのもpiano-forte部員の特権です。

◎メンバーの雰囲気は? ピアノを弾く女性といえば清楚、おとなしいと想像されがちですが、学年の上下問わず共通の趣味の話で盛り上がるなど楽しい雰囲気です。また、ピアノに向き合う姿勢はとても凛々しく美しさを感じさせます。

◎今後実施してみたい公演はありますか? 年に4回ある公演を除いて、基本的に個人練習が中心なので、部員同士でより仲を深めるための弾き合い会を行いたいです。連弾や2台ピアノを用いた演奏がもっとできればと思います。



#バレエ #ダンス #舞台

♡お気に入り

舞踊部 メンバー数:13人

活動内容:クラシックバレエを基礎として、様々なジャンルの踊りに挑戦しています。

◎舞踊部の魅力の一つを選ぶなら? 仲がいいこと! ダンスの話題は勿論、趣味の話で盛り上がり、一緒にご飯に行ったりすることもしばしば。必要な時には真剣なこともはっきり言い合えるとても良い人間関係が魅力です。

◎活動されている中で、楽しい!と感じたことは? できなかった振付ができるようになったり、全員の息がそろったりするときには楽しさを感じます。やはりバレエもダンスもピッタリと息をそろえることが大事なので、難しさもありますが楽しいです。

◎一番に残っているエピソードを教えてください! 一年に一度の大舞台である恋都祭です。大きな舞台上でスポットライトを浴びて踊る楽しさは強く心に残っていますね。見に来てくださった方も沢山感想を言って下さり、嬉しかったのを覚えています。



#奈良女かるた #小倉百人一首 #音の世界

♡お気に入り

競技かるた部 メンバー数:35人程度

活動内容:週3回の活動で、競技かるたの練習をしています。

◎競技かるた部のおすすめポイントは? 競技かるた初心者でも、先輩や経験者が優しく丁寧に教えてくれるので、日々上達を実感することができます。A、B級といった強い部員もいるので、刺激を受けて練習することができます!

◎競技かるたの魅力とは? 慣れてくると、百首の札に別の文字が見えたり、色がついているように見えます。また、静寂の中で句が読まれ、札を払う「バンッ」という音が響く雰囲気も魅力的です。試合で自分の好きな札を取れるととても嬉しいですよ!

◎今後の目標は? 部員を増やし、一人でも多くの人に競技かるたの楽しさを体験してほしいです。古都奈良で競技かるたの魅力に触れてみませんか?



#言葉と映像 #“やりたい”を叶える #新しいことを始めてみよう

♡お気に入り

放送局B-naRadio メンバー数:19人

活動内容:YouTubeでのラジオ配信や恋都祭のステージ司会、新入生歓迎会の音響、映像・音声作品の制作を行っています。

◎司会をされる際にかけていることはありますか? 「伝える」ということに重点を置いて、会場やイベントの雰囲気に合わせて話すようにしています。スムーズな進行、そしてイベントの成功に少しでもお力添えができるよう頑張っています。

◎ネットラジオ配信で思い出に残っているエピソードは? コロナ禍で初めてオンライン収録に挑戦したことです。お互いの顔が見えなかったり回線の遅れがあったりと大変な収録ではありましたが、ピーナらしい和気あいあいとした放送になったように思います。

◎これだけは負けない! 放送局B-naRadio自慢をするなら? やはり仲の良さですね! 普段の活動のみならず恋都祭後に打ち上げを行ったり長期休暇に希望者で旅行をしたりと回生の隔たりを越えて関わる機会が多くあります。他の学部の友人もでき、学校生活に楽しみが増えました!

■ 大学院生の顕著な業績をたたえ「奈良女子大学学長特別表彰」を実施



(左から) 今同学長、三藤さん及び遊佐教授

ウミウシ

2021年4月7日、大学院人間文化総合科学研究科博士後期課程2年生の三藤清香(みとう さやか)さんに対し「学長特別表彰」の表彰式を挙行了しました。

三藤さんが、遊佐陽一教授と合同で発表したウミウシの大規模な自切・再生能力に関する研究内容は、国際学術誌においても公開され、社会的に極めて大きく注目されたほ

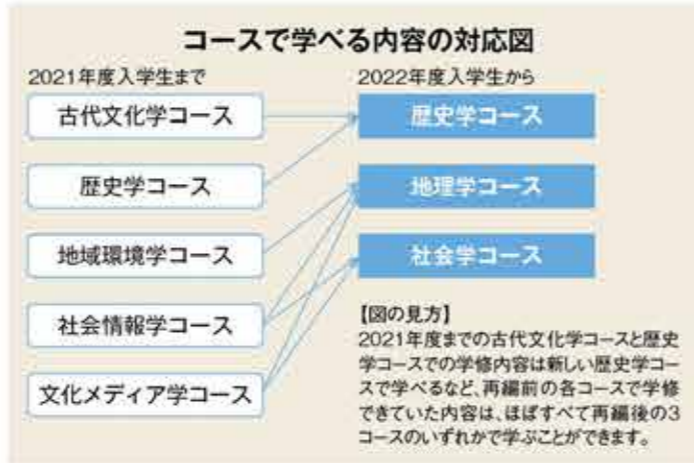
か新聞やテレビ、ネットニュース等に数多く大々的に取り上げられました。

この表彰では、本人並びに周囲の学生に対する今後の学術研究活動の励みとなるよう、本研究を教育研究活動を通じた社会的貢献につながる業績と認め、顕著な業績としてたたえました。

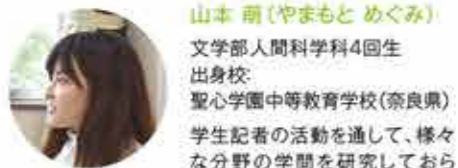
■ 文学部人文社会学科の履修コースが変わります

人文社会学科には、現在、5つの履修コース(古代文化学・歴史学・社会情報学・地域環境学・文化メディア学)がありますが、令和4(2022)年度入学者からは、歴史学コース・地理学コース・社会学コースに再編した、全3コースからなる履修コースとする予定です。

この再編により、学科としての学際的な学びの機会は今より維持したうえで、個々の学びと学問分野との関連をいっそう明確にし、より体系的で専門性の高い学修や卒業研究へとつなげます。また、自らが何を学んでいるのかを一層明瞭とすることで、学生ひとりひとりの対外的な発信力や自己アピール力の強化をはかります。



● 学生記者の声 ●



山本 萌(やまもと めぐみ)

文学部人間科学科4回生
出身校: 聖心学園中等教育学校(奈良県)
学生記者の活動を通して、様々な分野の学問を研究していただける先生方とお話を伺うことができました。社会人になっても、新しい知識に触れることの面白さを忘れずに何事にも取り組んでいきたいです。



高田 萌子(たかた ももこ)

人間文化総合科学研究科
博士前期課程言語学文化学専攻2回生
出身校: 奈良女子大学附属中等教育学校
これまで出会うことなかった他分野の先生方とお話を伺うことができ、大学というのは面白い場所だと改めて感じました。「ならじよ」の魅力をみなさんに届けるお手伝いが少しでもできたなら、嬉しく思います。



竹内 明日香(たけうち あすか)

文学部人文社会学科4回生
出身校: 宮城県仙台第二高等学校
今年度は、インタビューだけでなく、文献を調査して記事を書く経験ができたのが印象的でした。さまざまな方とお話をうかがい、自分が書いたものを多くの方に見ていただける記者活動は、とてもやりがいがありました。

日本全国に広がる奈良女のネットワーク!
地域色豊かな友人と
楽しい大学生活を送りませんか?



奈良女子大学の就職支援

就活は3回生の冬から本格スタートとなりますが、インターンシップ・各種セミナーへの参加など、3回生の春からしっかりと準備していく必要があります。奈良女子大学では就職活動の支援を目的に、主に以下のサポートを行っています。他にも学生個々人の状況に合わせ、柔軟にサポートをしています。

進路で迷った!
もっと色々知りたい!
情報を集めたい!

→ 1対1の個別相談を予約しよう!
→ セミナーに参加しよう!
→ キャリアサポートルームを利用しよう!



個別相談

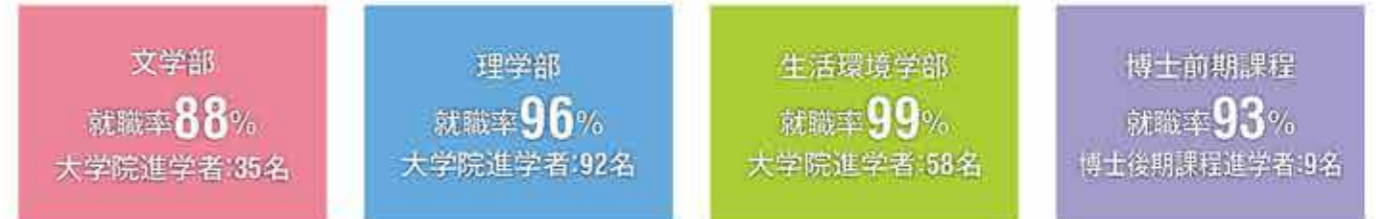


セミナー



サポートルーム

令和2年度の実績(詳しくはQRコードより)



主な就職先

(株)NTTファシリティーズ カゴメ(株) キヤノン(株) 京セラ(株) グンゼ(株) (株)島津製作所 清水建設(株)
住友電気工業(株) ダイハツ工業(株) 東京海上日動火災保険(株) トヨタ自動車(株) (株)ニシスポーツ
西日本電信電話(株) 日本電気(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 富士電機(株)
三菱重工業(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所 ヤフー(株) 山崎製パン(株) YKK AP(株)
奈良県教育委員会 京都府教育委員会 国土地理院 国税庁 奈良県 大阪市 大阪府



あの頃の奈良女へタイムスリップ!!

=本学自慢の名物教授 第6回 田村 俣 編=



2020年、私は米寿の祝いを済ませました。わが庭には松の木が4、5本ありますが、今や私は老松。奈良女子大学記念館の裏庭には四阿「若竹」がありますが、この文章は、「若竹」たる現役の皆さんや受験生の皆さんに「老松」が寄せるささやかなメッセージです。

プロフィールをご覧ください。私の半生は奈良女での教育一筋でした。同時に、19世紀フランス文学、とりわけバルザックの『人間喜劇』の研究と翻訳もしました。他方、現代フランス思想を研究し翻訳もしました。1960年代以降の構造主義とポスト構造主義の思想家、バルトやフーコーです。フランスに留学した1965年秋、パリの書店で発見したのがフーコーの博士論文『狂気の歴史』でした。過去の西洋人間像を完全否定する大著に圧倒されました。ソルボンヌ大学院ではバルトの記号論ゼミに出席しました。彼には来日体験に基づく『表徴の帝国』があります。

主要著作リストをご覧ください。私はフーコー(1926-84)の研究と翻訳に長らく没頭してきました。この哲学者は日本に2度やってきました。最初は1970年の秋。そのころ翻訳中だった『狂気の歴史』の内容について質問したり、テキストの誤植を確認したり…京都の日仏学院での氏の講演は「狂気と社会」でしたが、当時は日本ではまだ無名だったからか、聴衆は多くありませんでした。

二度目の来日は1978年の春。その時コレージュ・ド・フランス教授であったフーコーはフランス政府文化使節として来日したのです。4月、京都日仏学院での講演「危機における規律訓練社会」には多数の聴衆が詰めかけました。この来日での最も衝撃的な出来事は氏の禅寺体験です。山梨県上野原の青苔寺禅道場で座禅を組んだのです。

50年前の私は若松。一般教育でフランス語と西洋文学を担当していました。当時のゼミに出席していた卒業生は今や大きな真竹。その彼女たちと老松の私は読書会を年に二回開いています。若竹の皆さん、受験生の皆さん、一歩でも良い、前進してください。満開の紅梅白梅が貴女を待っています。

名誉教授 田村 俣

プロフィール

1932	島根県益田市高津町に生まれる
1950	島根県立浜田高等学校を卒業
1954	京都大学文学部(フランス文学)を卒業
1956	京都大学大学院文学研究科修士課程を修了
1959	京都大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学
1959	奈良女子大学文学部専任講師(フランス語)となる
1965	奈良女子大学文学部助教授となる
1965	文部省在外研究員としてフランスへ出張
1966	フランスから帰国
1969	奈良女子大学学生課長となる(1971年5月まで)
1975	奈良女子大学文学部教授となる
1978	奈良女子大学学生部長となる(1980年5月まで)
1989	奈良女子大学大学院人間文化研究科長となる(1993年3月まで)
1993	奈良女子大学学長となる(1997年3月まで)
1997	奈良女子大学を退官、名誉教授となる
2000	私立奈良大学評議員となる(現在に至る)
2008	瑞宝重光章を授与される

主要著作リスト ※印は単著

1959	バルザック全集「幻滅」(東京創元社)
1961	バルザック全集「ふくろう党」(東京創元社)
1965	世界の文学10「バルザック」(中央公論社)※
1968	L.アルチュセール「難るマルクス」(人文書院)
1975	M.フーコー「狂気の歴史」(新潮社)※
1976	E.トリオレ「ことばの森の狩人」(新潮社)※
1977	M.フーコー「監獄の誕生」(新潮社)※
1981	A.グリュクスマン「現代ヨーロッパの崩壊」(新潮社)※
1986	M.フーコー「性の歴史Ⅱ-快楽の活用」(新潮社)※
1987	M.フーコー「性の歴史Ⅲ-自己への配慮」(新潮社)※
1989	「フーコーの世界」(世界書院)※
1990	「フーコー・セミナーの記録-自己のテクノロジー」(岩波書店)
1991	D.エリボン「フーコー伝」(新潮社)※
1998	J.ミラー「M.フーコー/情熱と受苦」(筑摩書房)
2020	M.フーコー「監獄の誕生」新装版(新潮社)※
2020	M.フーコー「狂気の歴史」新装版(新潮社)※
2021	M.フーコー「性の歴史Ⅱ-Ⅲ」電子版(新潮社)※

田村先生との思い出

痩せて精悍な、少し猛禽類を思わせる風貌、しかし微笑むとなんと気品のある愛嬌がこぼれる。田村先生に接したものに残る、忘れがたい印象である。

田村先生の「表徴」はバルザックであった。『人間喜劇』によって王政復古時代のフランス社会を頂点から底辺まで描ききった、質量ともに尋常ではない研究対象である。しかも早くから、「裏芸」として先生は現代フランス思想に強い関心を寄せておられた。19世紀文学を専門とする伊吹武彦教授が、サルトルの紹介者として有名だった時代だ。当時サルトルの新訳が出ると、院生たちが争ってその訳文を検討していたと先生は回想されている。その関心がミシェル・フーコーの研究として実を結んだ。フーコーは古今東西の膨大な資料を博搜し、独自の方法で分析するので翻訳家にはとても手強い相手である。

しかし幸いなことに彼の名著『監獄の誕生』『狂気の歴史』は、

田村先生の達意の翻訳で日本に紹介された。さらに彼の畢生の大作である『性の歴史』の第二巻「快楽の活用」と第三巻「自己への配慮」の翻訳も、先生の訳業である。古代ギリシャからキリスト教の時代へと、人間が自ら生存しているという事実と如何に向き合ってきたかを克明にたどった難解きわまる著作だ。フーコーはパリの国立図書館閲覧室に住み着いて、つねに積み上げた資料を読み解いていたという。その翻訳者もどれほどの学識を求められたらうか。先生はそれに応えられた。退職なさってからも、私たちの活動を見守っていただき、様々な助言を頂いた。院生の研究についてビュートールのラシーヌ論が面白かったと発言されて、そこまで読んでおられるのかと感心したのが昨日のことのようだ。

文学部言語文化学科

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

小山俊輔 教授



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 小路田泰直、石井邦和、吉田孝夫、佐伯和彦、黒川嘉子

編集責任者/室長 小路田泰直 連絡先/奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

「ならじよToday」へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

・バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>